

◆実践問題26◆

1回目
2回目
3回目
4回目
5回目

昔、延喜の御門の御時、五条の天神のあたりに、

大きな柿の木の、実ならぬあり。その木の上に

仏現れておはします。京中の人こぞりて参りけり。

馬、車も立てあへず、人もせきあへず、拝みののし

りけり。

かくする程に、五六日あるに、右大臣殿心得ず

思し給ひける間、まことの仏の、末の世に出で給

ふべきにあらず。我行きて試みむと思して、日の

装束うるはしくして、檳榔の車に乗りにて、御前多

く具して、集まりつどひたる者ども退けさせて、

車かけはづして榻を立てて、梢を目もたたかず。

あからめもせずしてまもりて、一時ばかりおはす

るに、この仏しばしこそ花もふらせ。光をも放ち

給ひけれ。あまりにあまりにまもられて、しわび

て、大きな糞鳶の羽折れたる、土に落ちて惑ひ

ふためくを、童部ども寄りて打ち殺してけり。大

臣はさればこそとて、帰り給ひぬ。

さて、時の人、この大臣を、いみじくかしこき人

にておはしますと、そののしりける。

1 = 4